



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.7.20

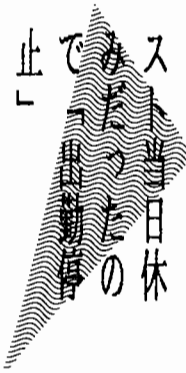
No. 3256

苦しまぎれの理由なき処分、当局自らデタラメを露呈

「暴言」と決めつけ重処分

JR東日本・千葉支社が強行した不当処分は、その「発令通知書」の内容があきらかになるにつれて、その処分の不当性が、デタラメさがますます鮮明となってきた。

正当なストライキ・争議行為に対する一切の処分を許さず、処分撤回、「スト損賠」粉砕へストライキで闘い抜く体制を全力でつくりあげよう。



なによりも、処分のデタラメさは本部執行委員だということ、「三〇日間出勤停止」というところに表れている。

「三〇日間出勤停止」とは、その上「解雇」しかないという重大な処分である。ところがその理由が「本部執行委員であった貴殿の責任が認められるため」としか書かれていない。

東日本の社員で非専従の執行委員は五名いるが、そのうちの二人を上記を理由に「出勤停止」にしている。

この二人に共通しているのは、三、一八スト当日の勤務が「休み」だったことだけである。

たことだけである。

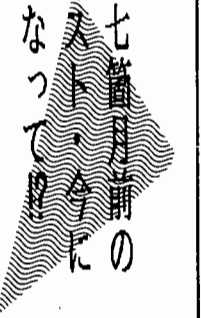
五人の執行委員は、全員営業へ強制配転され、すでに二、三年がたっている。「前倒し」は、運転で行ったことであるにもかかわらず、勤務についていかなかったから「責任が認められる」として処分する。これほどデタラメな事があるだろうか。



又、千葉運転区押垂現支部長に対する「出勤停止一日」も断じて許せない。千葉支社は繁沢(スト当時の)支部長を強制配転し、六月二十八日の臨時支部大会で新たに就任した押垂支部長(当時副支部長)に支部レベルでは最高の重処分を行っている。

千葉運転区こそは、土岐反動区長の「風土改革」と称した、組合つぶし攻撃と真つ向から闘いぬいている拠点である。

そしてその攻撃に対し、先頭に立って闘っている押垂支部長を、六月の処分にひきつづいて処分をすることで、千葉転支部の組織破壊を狙っていることははっきりしている。



更に、この不当処分は、当初当局の主張していた三、一八ストへの処分とあわせて、昨年の一、二、五・今年の一、一八ストの処分もひっくり返して強行している。

七箇月前の一、二、五・半年前の一、一八への処分は、三、一八ストだけでは処分することがむずかしいことから、三波のストを抱きあわせにすることで、あたかもこの間の一連のストが、「違法に」行われたかのようにデッチあげるみえすいたものである。

逆に言うなら三、一八ストが全く正当に闘われ、処分自身が不当であることを証明するものなのだ。

一、二、五と一、一八を理由とするものは、「退去通告に従わなかった」こと、スト破りのJR総連組合員に「嫌がらせの発言」「嫌がらせの行為」を行ったこととされている。だが、スト破り行為に対して追求することは、スト参加者として当然のことではないのか。スト破りをみすみす指をくわえて見ているだけなら、ストライキは当局とJR

総連のスト破りの前に、破壊されてしまう。

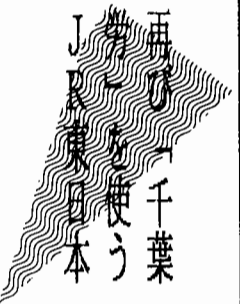
当局は一言もふれようとしていない(ふれることができない)が、清算事業団一五〇〇名の首切りに対して、ストライキで闘うことと、首切りを押し進めるスト破りを弾劾することは、あたりまえのことである。



JR総連が、スト破りという不正義の前に恐れおののいて、なんとかスト破りの追求をやめさせてくれとJRになきつき、それを受けて千葉支社が一、二、五・一、一八にまで拡大して処分を強行するという、JRとJR総連改革マルの結託体制が、この処分の最大の特徴なのだ。しかも、強制配転された営業の仲間にも「戒告」などの処分を乱発する。ここには「はじめに処分ありき」という当局の姿勢が、鮮明に表れている。

処分時に「理由」をつける。これがJR東日本のやり方なのだ。

営業の仲間たちも、自らの三年以上に及ぶ団交確認を無視した強制配転、賃金差別への怒りとともに、今度の不当処分粉砕に向けて全力で闘いぬこう！



今度の処分での特徴に「千葉労」という用語の復活がある。千葉支社が記者会見用にマスコミに配布した資料に、勤務千葉のことを「千葉労」と称している。

この用語は、八五年一一、二八分割・民営化反対第一波前倒しストの時ストの威力に恐怖した当時の勤務「本部」改革マルが「勤務千葉と出される」と、勤務(本部)とまぎらわしいから」と国鉄当局に使われた、れっきとした改革マル用語である。今だに改革マルとそれに追隨する当局のみが使っているにすぎない。

しかも勤務千葉の「申し入れ」によって、団交で「今後使わない」と確認したものである。それをここにきて再び使いだした中に、今回の処分が、JR総連改革マルと結託したものであることが、証明される。

スト破りを行い、今また処分を強要するJR総連改革マルを許すな！

七月二一日の処分抗議の集会とデモを成功させ、不当処分粉砕「スト損賠」粉砕へ、熱い夏を全力で

90年代の勝利へ、新たな10年を切りひらこう！

明日7月21日 総決起集会

18時 千葉市民会館